

Accuphase

COMPACT DISC PLAYER

CDプレーヤー

COMPACT
disc
DIGITAL AUDIO

DP-400

取扱説明書



ご使用前に、この「取扱説明書」と別冊の「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。お読みになったあとは、お客様カードと引きかえにお届けいたします「品質保証書」と一緒に大切に保存してください。

このたびはアキュフェーズ製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。

最高峰のオーディオ・コンポーネントを目指して完成されたアキュフェーズ製品は、個々のパーツの選択から製造工程、最終の出荷にいたるまで厳重なチェックを行い、その過程と結果の個々の履歴は、製品全体の品質保証に活かされています。このような品質管理から生まれた本機は、必ずやご満足いただけるものと思います。

末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

3年間の品質保証と保証書

当社製品の品質保証は3年間です。付属の「お客様カード」に必要事項を記入の上、必ず(なるべく10日以内)にご返送ください。「お客様カード」と引きかえに「品質保証書」をお届けいたします。

※「お客様カード」のご返送や「品質保証書」の発行について、詳しくは29ページをご参照ください。

※「品質保証書」はサービスサポート時に必要となりますので大切に保管をしてください。

製品に関するお問い合わせや異常が認められるときは、お求めの当社製品取扱店または当社品質保証部へ、直ちにご連絡ください。

尚、保証は日本国内のみ適用されます。

Accuphase warranty is valid only in Japan.

⚠マークについて

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人身事故の発生する可能性や製品に重大な損害を生じる恐れがあることを示しています。お客様への危害や、機器の損害を防止するため、表示の意味をご理解いただき、本製品を安全に正しくご使用ください。

⚠警告

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う可能性があり、その危険を避けるための事項が示してあります。

⚠注意

この表示を無視して、誤った使い方をすると、人が軽度の傷害を負う可能性や製品に損害を生じる恐れがあり、その危険を避ける為の事項が示してあります。

付属品を確認します

- 取扱説明書(本書) 1冊
- リモート・コマンダー RC-100 1個
- 安全上のご注意 1冊
- 単4乾電池 2個
- お客様情報の取扱いについて 1枚
- プラグ付オーディオ・ケーブル(1m) … 1組
- お客様カード 1枚
- AC電源コード(2m) 1本
- 目隠しシール 1枚

目 次

付属品を確認します	表紙裏頁
1. ⚠ 警告 安全上必ずお守りください	2
お使いになる前に	2
⚠注意/使用上の注意	3
2. 各部の名前	4, 5
フロントパネル、リアパネル	4
ディスプレイ部/リモート・コマンダー	5
3. 接続図	6
4. 各部の動作説明	7~9
5. リモート・コントロール	10
使用法/電池について	10
6. ご使用方法	11~24
通常のCDプレーヤーとして使用する場合	
演奏の基本操作	11
ディスプレイ部(CDプレーヤー動作時)	12, 13
いろいろな演奏方法	
途中で演奏を中止するには	14
演奏を直ちに開始しないとき	14
トラック(曲)を指定して演奏	14
トラック(曲)の途中の演奏したい部分を探す	15
リピート(繰り返し)演奏	16, 17
プログラム演奏	18, 19
タイマー演奏	20
外部機器を接続してデジタル・プロセッサ部を活用	
ディスプレイ部の表示	21
デジタル入力でCDトランスポート、MDなどを再生	22
デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合	23
デジタル・ヴォイスング・イコライザーDG-48の接続	24
7. 保証特性	25
8. 特性グラフ	26
9. ブロック・ダイアグラム	27
10. 故障かな?と思われるときは	28
11. アフターサービスについて	29

1. ⚠️ 警告 安全上必ずお守りください

ご使用前にこの『取扱説明書』と別冊の『安全上のご注意』を良くお読みの上、製品を安全にお使いください。

■電源は必ずAC(交流)100V、50Hz/60Hzを使用する。

- AC100V(50Hz/60Hz)以外で使用すると、感電や火災の原因となります。

■電源コードは取り扱いを誤ると、感電や火災の原因となり危険です。

- 付属の電源コード以外は絶対に使用しない。
- ぬれた手で電源プラグを絶対に触らない。
- 電源コードの上に重い物をのせたり、本機の下敷きにしなない。
- 電源コードが傷んだら、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

■密閉されたラック等には絶対に設置しない。通風が悪いと機器の温度が上り、火災や故障の原因となります。

■放熱のため製品の周辺は他の機器や壁等から充分間隔(10cm以上)をとる。

■危険ですから脚の交換は行わない。取り付けネジが内部の部品に触れると、火災や感電、故障の原因になります。

■機器の上に水などの入った容器(花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品など)、新聞紙、テーブルクロスなどを置かない。

■火災又は感電を防止するために、雨が降る場所又は湿気のある場所では絶対使用しない。

■ケースやボトム・プレートなどは絶対にはずさない。内部に手などで触れると感電や故障の原因となり、大変危険です。

■次の場合には本体の電源スイッチを切り、必ず電源コードをコンセントから抜く。安全を確認後、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。

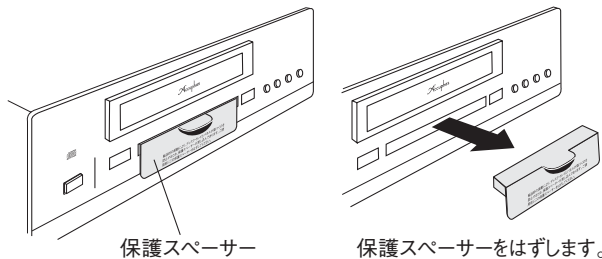
- 内部に水や薬品などの液体がかかった場合。
- 内部に異物(燃えやすい物やヘアピン、釘、硬貨など)が入った場合。
- 故障や異常(発煙やにおいなど)と思われる場合。
- 落としたり、破損した場合。

※ 電源コードをコンセントから抜かずに、電源スイッチをOFFにただけでは、本機への電源供給が完全に遮断されません。そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

※ 万一の場合、電源コードをコンセントから容易に外せるように、コードの引き回しやコンセント周りの環境を整えてください。

お使いになる前に

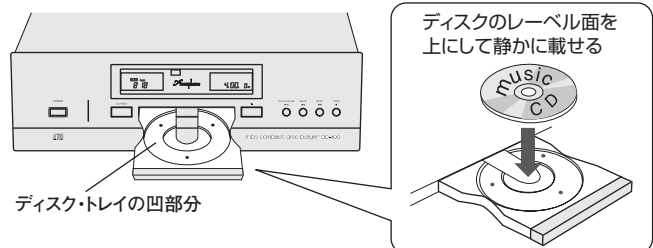
輸送時の振動により、ディスク・トレイとパネルが傷つくのを防止するため、保護スペーサーが差し込んであります。ご使用前にこの保護スペーサーをはずしてください。



※アフターサービス等の輸送時にも、このはずした保護スペーサーを使用しますので、保存しておいてください。

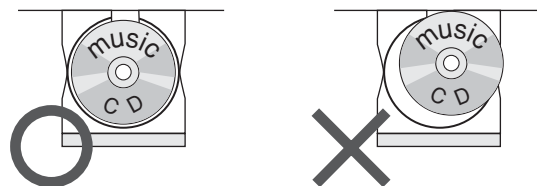
ディスクは正しく載せてください

ディスク・トレイの円形のくぼみ(凹)部分から《はみ出さない》ように、ディスクを中央に静かに載せてください。



トレイ円形凹部分から《はみ出ない》ように中央に載せる。

トレイ円形凹部分から《乗り上げ》ないように注意する。



- 凹部分から《はみ出して》載せると、ディスクに傷を付ける恐れがあります。
- ディスクを凹部分から《はみ出して》、乗り上げた状態のままトレイを閉じると、挿入口で噛み合い、トレイが途中で動かなくなる恐れがあります。
- ディスクを噛んで、トレイが途中で動かなくなった場合は、本機の電源スイッチを切ってから、手で静かにトレイを引き出してください。

⚠ 注意

■設置場所について。

必ず水平な場所に設置してください。次のような場所は、故障や事故の原因となります。

- 通風が悪く、湿気やほこりの多い場所
- 直射日光の当たる所
- 暖房器具の近くなど温度の高い所
- 極端に寒い所
- 振動や傾斜のある不安定な場所

また、他の機器と直接重ねての使用は絶対に避けてください。

チューナーやテレビ、DVDレコーダーから離して設置してください。

- 近くに置くと雑音や映像の乱れが生じることがあります。(特に室内アンテナの場合は注意。)
- アンテナ線と本機の電源コードや入・出力コードを離して設置してください。

■レーザー光源をのぞき込まない。

レーザー光をのぞき込むと視力障害の原因となります。

■子供がディスク挿入口に指を挟み込まれないように注意する。

けがや故障の原因となることがあります。

■入出力コードを接続する場合は、必ず各機器の電源を切ってから、確実に行ってください。

RCAタイプのピンプラグをジャックから抜き差しするときは、一瞬(-)側が浮いた状態になるため、大きなショック・ノイズを発生し、スピーカーを破損する原因となります。

■音量レベルについて。

CDは、音楽信号に含まれるピーク成分も正確に再現します。したがって、ノイズを聴きながら音量レベルを合わせると、思わぬ大音量が出てスピーカーを破損することがあります。また、音量に対する注意書きがあるディスクは、ボリュームにご注意ください。

■長期間で使用にならないときは、安全のために電源プラグをコンセントから抜いてください。

■電源スイッチのOFF直後、10秒以内に再びONしない。ノイズ発生などの原因となることがあります。

■入・出力端子などに接点保護剤などを絶対に使用しない。樹脂部が経年変化で破損して感電や故障の原因となることがあります。

本体のお手入れ

- お手入れの場合は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本体のお手入れは、柔らかい布を使用してください。固く絞った布で水拭きし、その後乾いた布で拭いてください。ベンジン、シンナー系の液体は、表面を傷めますので使わないでください。
- ディスク・トレイ内のお手入れにアルコール類を使用しない。アルコールで拭くとディスク・クッション(3個)が剥れるおそれがあります。

使用上の注意

■本機で再生できるのは、CDの標準規格に合致したディスクだけになります。ディスクには必ず、CDマークが印刷されていますので、使用前にCDマークの有無をご確認ください。また、ディスク・パッケージの内容をよくお読みください。



本機で再生できないディスクの例

- CD-ROM ● DVD ● SA-CD ● DVD-Audio
- CD-RW ● dts-CD ● MP-3 ● BD(ブルーレイ・ディスク)

※誤って使用するとノイズを発生する場合があります。

※CD EXTRA、CD-Rなどは録音状態によっては正常な動作をしない場合があります。

■CCCDの再生は、動作・音質を保証できません。

- コピー・コントロールCD(CCCD)など『著作権保護技術付音楽ディスク』は、現在のCD規格に準拠していない特殊ディスクのため、当社のCD再生機器による再生の動作・音質は保証できません。
- CCCD等の詳細につきましては、ディスクの発売元にお問い合わせください。

■光学系ピックアップの結露について

冬期、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がついて曇ってしまう現象、これを結露といいます。CDプレーヤーでも次のようなときに、ピックアップ・レンズに結露することがあります。

- ストープなど、暖房器具をつけた直後
- 湿度が高く、湯気が立ち込めている部屋に置いてあるとき
- 冷えた戸外や冷房のきいた部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだとき

結露してしまったら

結露すると、光学ピックアップがディスクのデジタル信号を読み取ることができず、プレーヤーが正しく動作しなかったり、まったく作動しなくなります。

このような場合、ディスクを取り出して電源を入れておけば、約1時間ほどで露が取り除かれ、正常な作動をします。

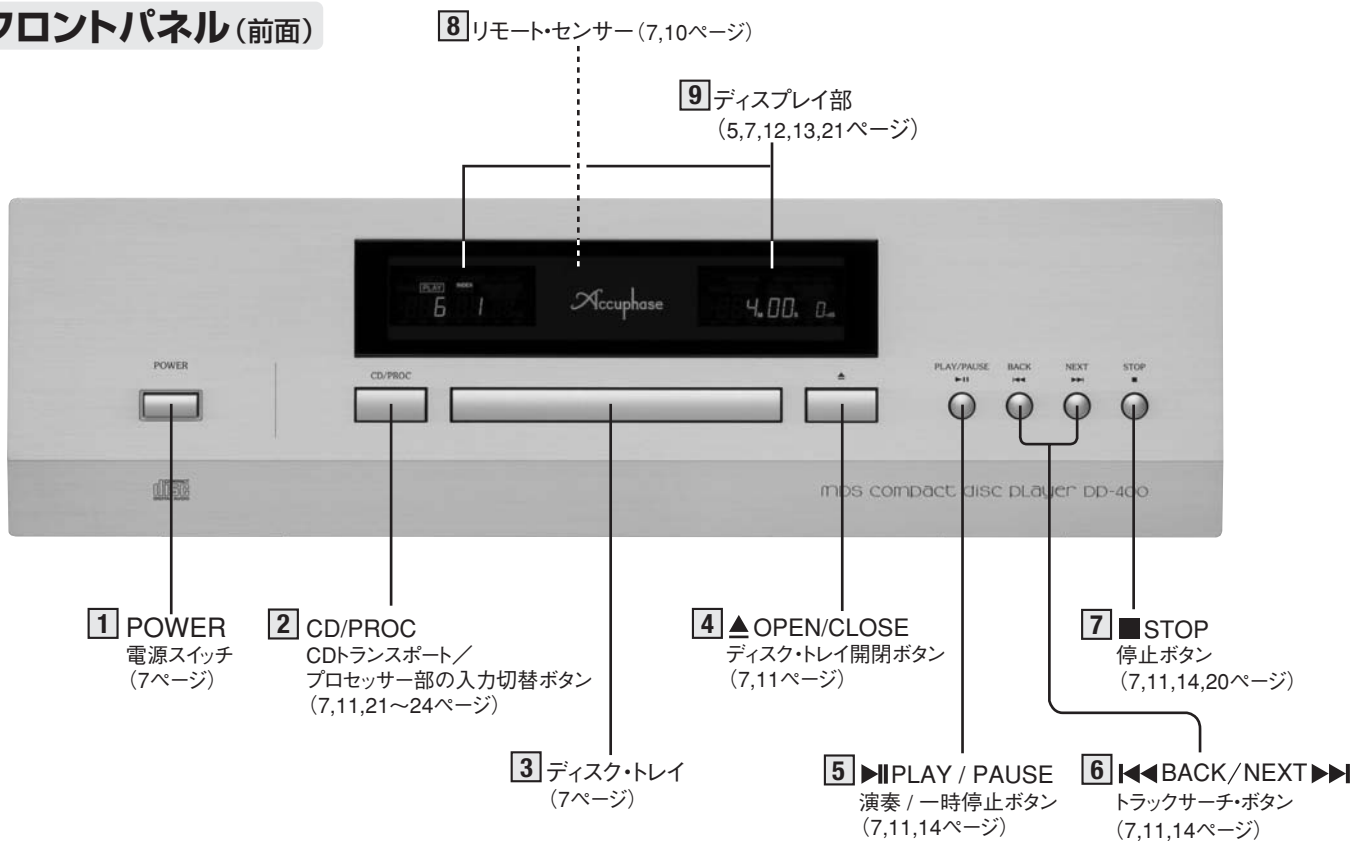
～ディスクの取り扱いについて～

- 直射日光が当たる場所や、高温多湿のところには置かないでください。
- 演奏終了後は、ホコリ・キズを避けるため、必ずケースに入れて保存してください。
- レーベル面の反対側が信号読み取り面です。持つ場合には、信号面をさわらないようにしてください。指紋やホコリなどの汚れは音質劣化の原因となります。
- ディスクのお手入れの場合は、柔らかい布で内側中心から外側へ軽く拭いてください。
- ベンジン、レコードクリーナー、静電防止剤などは、ディスクを傷めますので使わないでください。

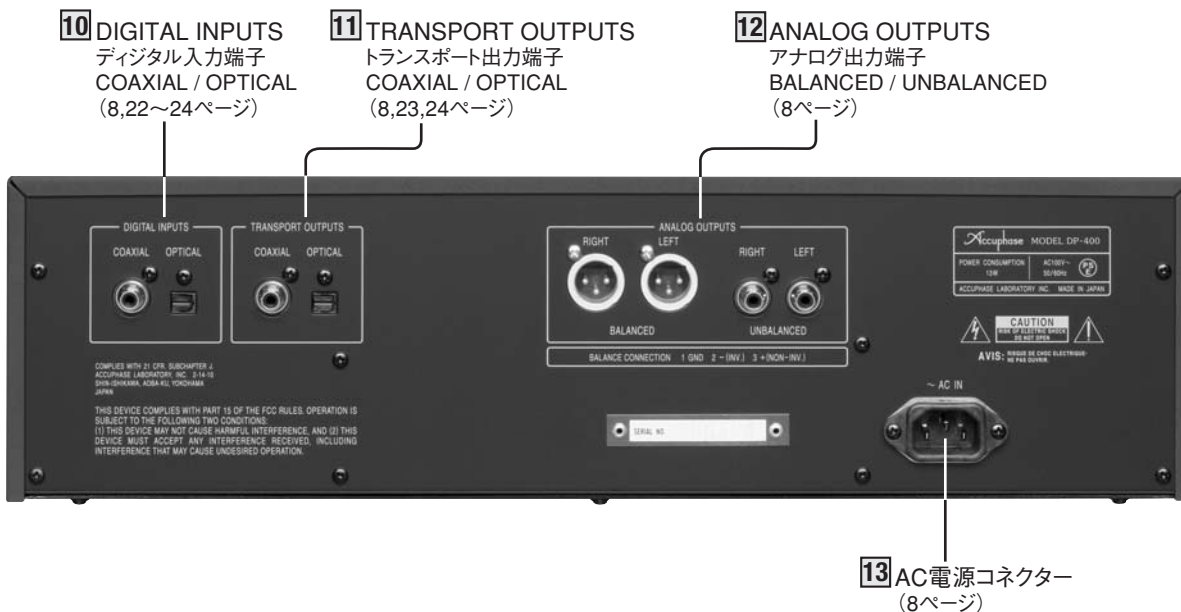
2. 各部の名前

詳しい説明は、各項目の()内のページを参照してください。

フロントパネル(前面)

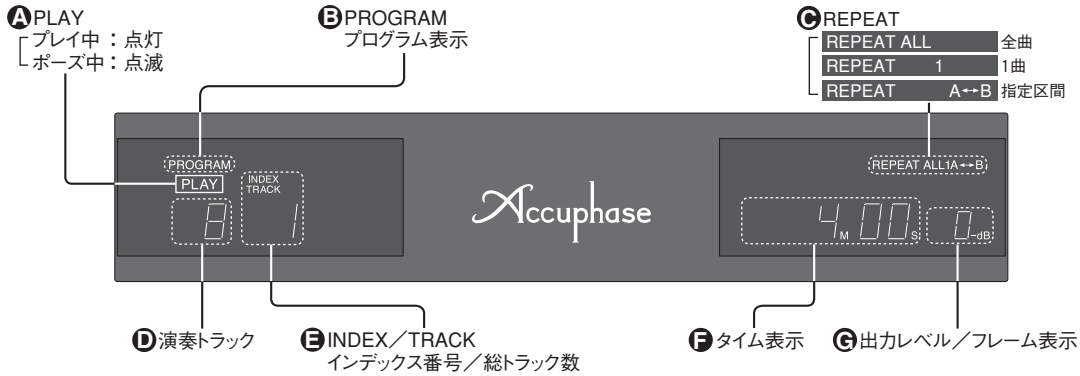


リアパネル(後面)

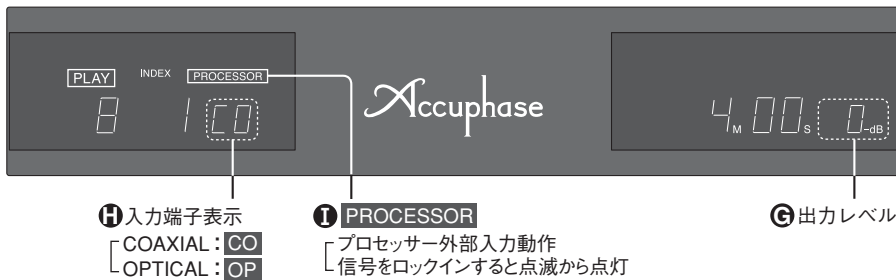


9 ディスプレイ部 (イラストは説明用ですので、実際の表示とは異なります)

CDプレーヤー動作 [CD/PROC] ボタンまたは [INPUT SEL] ボタンで、「CDトランスポート動作」を選択 (11~13ページ参照)



プロセッサー動作 [CD/PROC] ボタンまたは [INPUT SEL] ボタンで、「外部入力動作」を選択 (21~24ページ参照)



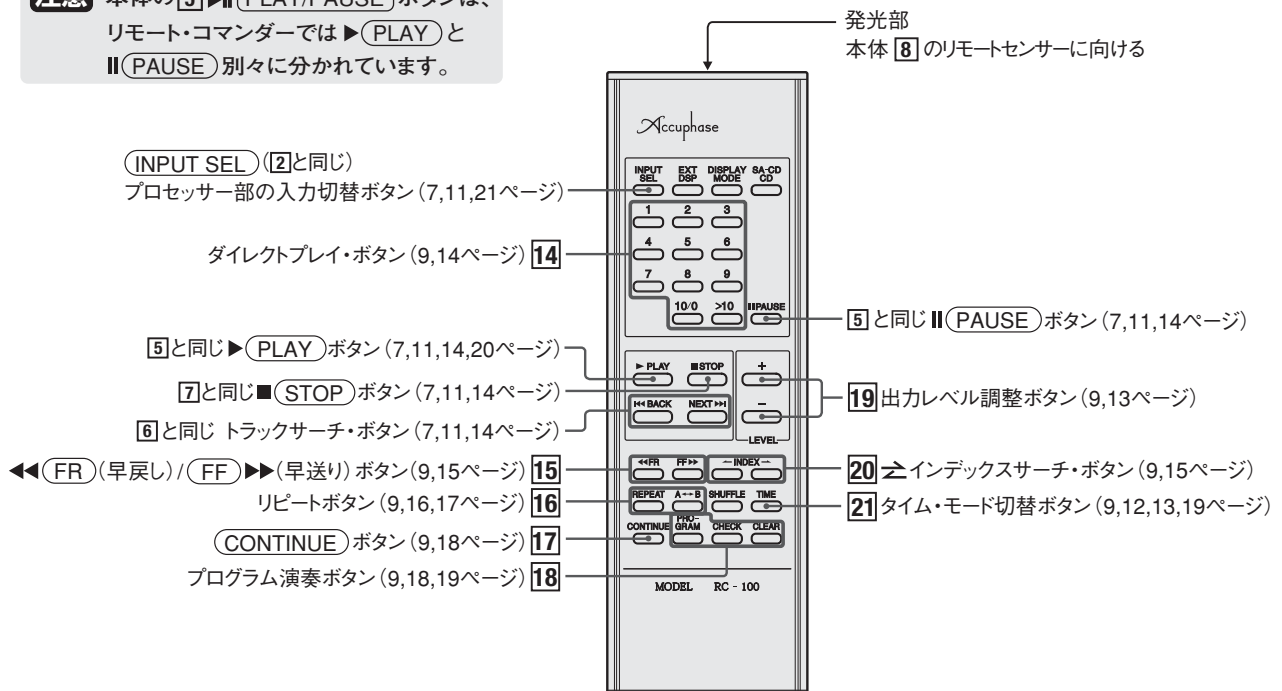
メモ
外部入力によるプロセッサー動作に変えても、CDトランスポートの動作は継続しています。CDプレーヤーの動作表示も変わらず、そのままデジタル録音が可能です。

リモート・コマンダー RC-100(付属)

(使用方法は10ページ参照)

RC-100は他機種と共通のリモート・コマンダーです。このため説明の無いボタン([EXT DSP] [DISPLAY MODE] [SA-CD/CD] [SHUFFLE])は、DP-400に装備していない機能ですから、押しても動作しません。

注意 本体の [5] [PLAY/PAUSE] ボタンは、リモート・コマンダーでは [▶] [PLAY] と [||] [PAUSE] 別々に分かれています。



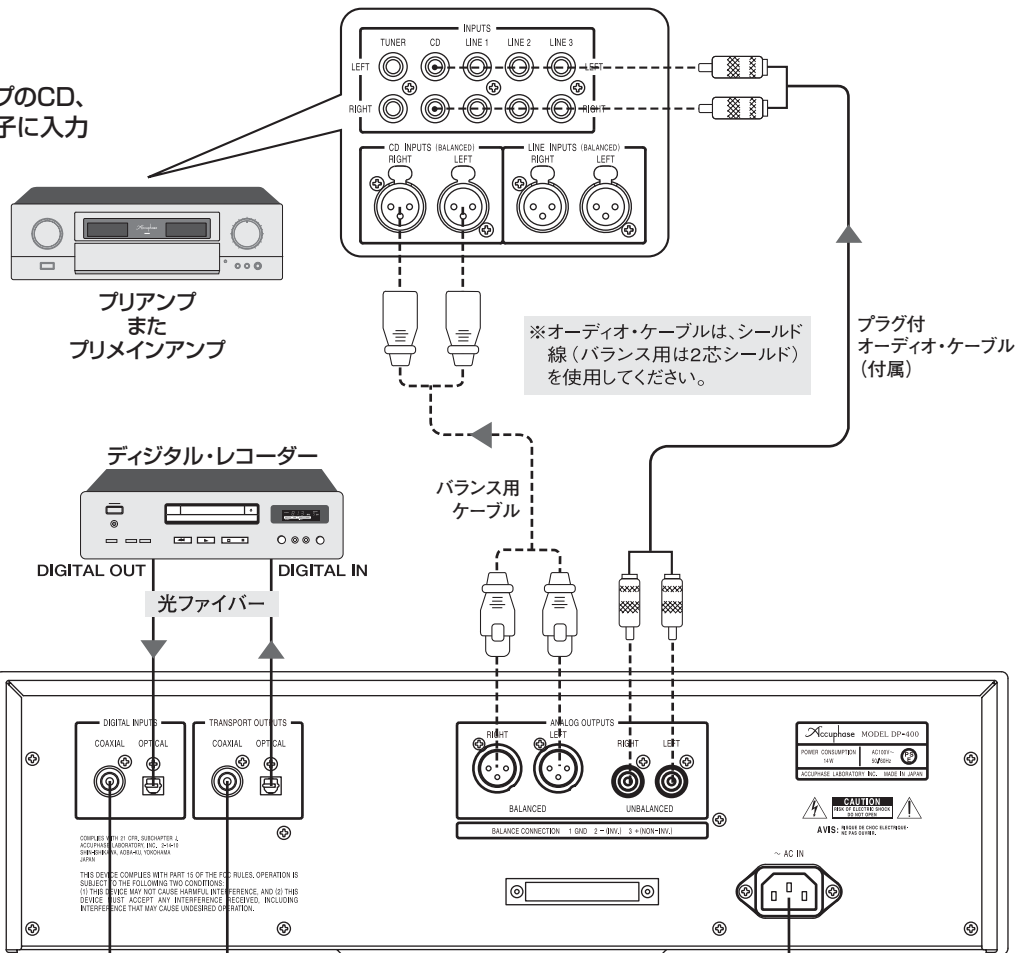
3. 接続図

⚠ 注意 : 接続するときは、必ず各機器の電源を切る。

- 注意**
- アナログ出力の接続はオーディオ・ケーブルを使用し、LEFT(左)、RIGHT(右)を正しく接続してください。
 - 同一機器同士でバランス用とアンバランス用の両ケーブルを同時に接続して使用しないでください。アースがループになって、ノイズを発生させる原因となります。
 - デジタル機器との接続は、同軸デジタル・ケーブルまたは光ファイバーを使用します。
 - DAC内蔵アンプ(デジタル入力用のオプションを増設したアンプ等)に、デジタル同軸出力とアナログ出力を同時に接続しないでください。

アナログ出力の接続

プリアンプまたはプリメインアンプのCD、LINE、AUX等と表示のある端子に入力してください。



デジタル録音と再生

(23ページ参照)

デジタル・レコーダー

DIGITAL OUT DIGITAL IN
光ファイバー

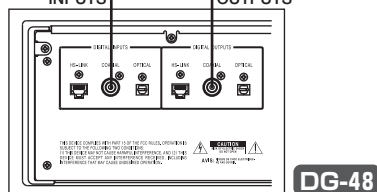
DP-400

同軸デジタル・ケーブル

AC電源コード (付属)
AC100V、50/60Hz
(8ページ)

デジタル・ヴォイシング・イコライザー DG-48の接続

デジタルで音場補正ができます。
(24ページ参照)



DG-48

4. 各部の動作説明

- 詳しい使用方法は()内のページを参照してください。
- 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

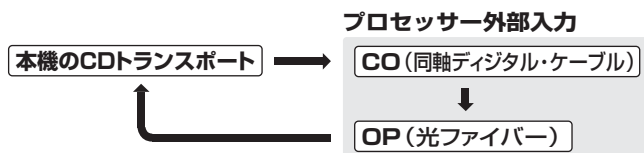
1 POWER — 電源スイッチ

押すと電源が入り、再び押すと切れます。

- 電源スイッチをOFFにすると、外部機器入力ポジション、出力レベル、リピートの“ALL”と“1”、時間表示などを除いて、それまでに設定された機能は解除されます。

2 CD/PROC ボタン (21～24ページ)

押すたびに、プロセッサ部への入力信号が切り替わります。ディスプレイ部の表示(21ページ参照)で確認します。



※本機のCDトランスポート演奏中にプロセッサ外部入力(PROC)に切り替えても、本機のCDトランスポート動作は続きます。ただしボタンを切り替えて、外部機器が接続されていないときや入力信号をロックインしないときは、アナログ出力が途切れます。

※リモートコマンドの(INPUT SEL) ボタンも同様の機能です。

3 ディスク・トレイ

▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと手前に出てきます。

トレイを閉めるには

- ディスク・トレイ前面を軽く押す。
- ▲ [OPEN/CLOSE] ボタンをもう一度押す。
- ▶|| [PLAY/PAUSE] (またはリモート・コマンドの▶ [PLAY] か|| [PAUSE]) ボタンを押す。

4 ▲ [OPEN/CLOSE] ボタン

押すと、ディスク・トレイが手前に出てきます。もう一度押すとトレイは中へ入ります。

- ディスクが入っている場合には、総トラック数と全演奏時間を表示します。

5 ▶|| [PLAY/PAUSE] (演奏/一時停止) ボタン (11,14ページ)

演奏を開始するとき、または演奏を一時停止するときに押します。

注意

リモート・コマンドのボタンは、▶ [PLAY] と|| [PAUSE] が別々になっています。機能の操作が若干異なるところがありますので、使用時は本書をよくお読みください。(15,17ページ)

6 ◀◀ [BACK] / [NEXT] ▶▶ トラックサーチ・ボタン (11,14ページ)

◀◀ [BACK] トラックサーチ・ボタン

演奏中や一時停止の状態、1回押すとそのトラックの頭に戻ります。繰り返し押すと順次、前のトラックの頭へ飛びます。

[NEXT] ▶▶ トラックサーチ・ボタン

1回押すと次のトラックの頭へ飛びます。繰り返し押すと順次、次のトラックの頭へ飛びます。

◎ 本体のボタンのみ、0.5秒以上押し続けると、それぞれ ◀◀ [FR] (早戻し) / [FF] ▶▶ (早送り) 動作となります。

7 ■ [STOP] (停止) ボタン (11,14,20ページ)

演奏中や一時停止中にこのボタンを押すと演奏停止になります。

- [STOP] ボタンを約2秒間押し続けると、タイマー演奏のON/OFF設定ができます。(20ページ参照)

8 リモート・センサー

リモート・コマンドRC-100の赤外線信号の受光部です。リモート・コマンドを使用するときは発光部をここに向けてください。

9 ディスプレイ部 (5,12,13,21ページ)

“CD” (本機のCDトランスポート動作) と “PROC” (外部デジタル入力動作) の場合で表示が異なります。

10 DIGITAL INPUTS デジタル入力端子 (22~24ページ)

本機をデジタル・プロセッサとして使用する場合の入力端子です。

CDトランスポート、MD、などのデジタル信号を、同軸デジタル・ケーブルや光ファイバーなどで同時に入力することができます。

COAXIAL：同軸デジタル・ケーブルで接続
OPTICAL：光ファイバーで接続

11 TRANSPORT OUTPUTS トランスポート出力端子 (23ページ)

本機のCDトランスポートのデジタル信号を出力します。MDなどデジタル入力端子を装備したレコーダーを接続して録音することができます。

COAXIAL：同軸デジタル・ケーブルで接続
OPTICAL：光ファイバーで接続

- デジタル信号の出力レベルは、可変できません。
- DG-48の接続は24ページ参照。

12 ANALOG OUTPUTS アナログ出力端子

アナログ出力は、アンプのCD、LINEまたはAUXの入力端子と接続します。

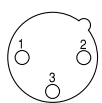
- 出力レベルはリモート・コマンド RC-100のLEVEL (+) (-) ボタンで可変(0~-60dB)できます。

UNBALANCED (不平衡出力) ジャック

ピンプラグ付オーディオ・ケーブルでアナログ出力を取り出します。

BALANCED (平衡出力) コネクター

バランス伝送用出力コネクターで、ピンの極性は、次のようになっています。



- ①: グラウンド
- ②: インバート(-)
- ③: ノンインバート(+)

- バランス用オーディオ・ケーブルは当社で別売しています。

13 AC電源コネクター

付属の電源コードを接続します。



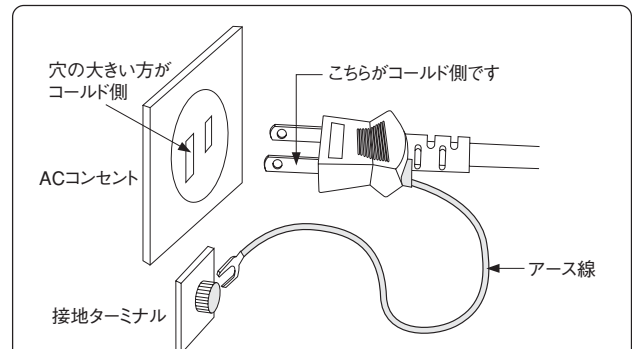
警告

電源は必ずAC100V家庭用コンセントを使用する。

■電源コードに付いているアース線の接続

付属の電源コードには、プラグ側に接地用アース線が付いています。感電防止のため、このアース線を接地用ターミナルに接続すると、より一層安全になります。

接地ターミナルの工事は、電気工事店にご相談ください。



警告

アース線の接地用ターミナルへの接続は、必ずプラグをコンセントにつなぐ前に行ってください。また、アース線を外すときは必ずプラグをコンセントから抜いてから行ってください。

■電源コードの極性表示

本機は、トランスの巻き方向、部品の配線など極性を管理して、電源プラグのアース線が出ている方がコールド側になっています。機器の接続を統一したい場合は参考にしてください。

注意

※室内コンセントの極性は一般に、向かって左側(穴が右に比べて大きい)がコールド側です。

※大地に対する電位は屋内配線の状況によって変化します。このためチェッカーなどを使用して測定した場合、電位が逆表示することがあります。

14 ダイレクトプレイ・ボタン (14ページ)

トラック(曲)の番号を直接指定して、演奏を開始させることができます。STOP(停止)状態の時、PLAY(演奏)中であってもこのボタンが優先します。

ただしPAUSE(一時停止)中は、トラック指定はできますがポーズ(一時停止)のまま演奏は開始しません。

15 ◀◀(FR)(早戻し)/ (FF)▶▶(早送り)ボタン (15ページ)

PLAY(演奏)中およびPAUSE(一時停止)中に作動させ、聴きたい部分を探します。

16 リピート(繰り返し演奏)ボタン (16,17ページ)

REPEAT

ディスクの全曲または1曲だけを繰り返して演奏します。

A↔B(指定区間の繰り返し演奏)

指定区間の繰り返し演奏をします。

17 (CONTINUE) ボタン (18ページ)

プログラム再生中に押すと、通常の演奏に戻ります。

18 プログラム演奏ボタン (18,19ページ)

PROGRAM

聴きたいトラックだけをセレクトして、好きな順序で演奏を楽しむことができます。

CHECK(プログラム・チェック)

プログラムしたトラックの順番を確認します。

CLEAR

プログラムした曲を削除します。

19 LEVEL(+)(-) ボタン 出力レベル調整 (13ページ)

デジタル方式により、12 アナログ出力端子のレベルを0～-60dB (1dBステップ)で可変できます。

●通常は0dBで使用します。

20 ≧(INDEX) ボタン インデックスサーチ (15ページ)

指定したインデックスの頭から演奏を始めることができます。

21 (TIME) ボタン タイム・モード切替 (12,13,19ページ)

押すたびに、曲中経過時間、曲中残量時間、トータル残量時間、トータル経過時間等を表示します。

5. リモート・コントロール

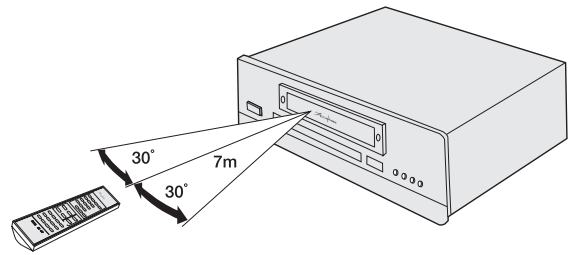
リモート・コマンダーRC-100

本機に付属しているリモート・コマンダーRC-100を使うと、離れたところからDP-400の機能をコントロールすることができます。
(機能の詳細は5ページ参照。)

使用法

リモート・コマンダーの発光部を本体の⑧リモート・センサーに向けて、図の範囲内でお使いください。

- 落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。
- 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。



電池について

■電池の交換時期

電池は普通に使って約8カ月は動作しますが、操作距離が短くなってきたら交換時期です。完全に消耗しますと、ボタンを押してもコントロールできなくなります。

- 使用する電池は、単4形を2個、両方とも新しい電池に交換してください。
- 電池を廃棄するときは、地域の環境保全にご注意ください。

警告

乾電池は充電しない。電池の破裂や、液漏れにより、火災やけがの原因となります。

注意

■電池について

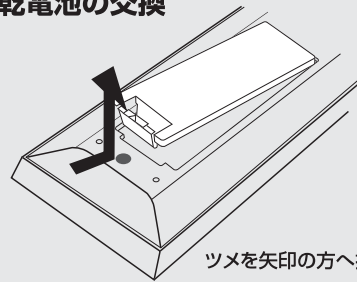
- 乾電池は正しく使わないと、液漏れや破裂などの危険があります。
- 電池の向きはコマンダーのケースに示されている通り、⊕（プラス）、⊖（マイナス）を正しく合わせる。
- 新しい電池と、1度使用したものを混ぜない。
- 種類の違う乾電池を混ぜて使用しない。同じ形状でも、性能の異なるものがあります。
- 長時間にわたりコマンダーを使わないときは、電池を抜いておく。
- 万一、液漏れを起こしたときは、当社品質保証部にご連絡ください。漏れた液体が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

■ テレビやインバータ照明等の近くに設置した場合、リモコンの動作が不安定になることがあります。故障ではありません。置く向きを変えたり、お互いに離してお使いください。

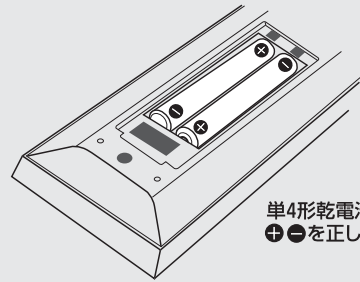
■ リモコンを落としたり、内部に液体をこぼしたりしないようにしてください。

■ 直射日光の当たる所や暖房器具のそばなど、温度や湿度の高い場所に置かないようにしてください。

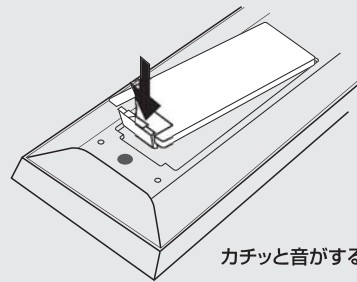
乾電池の交換



ツメを矢印の方へ押し蓋を開ける。



単4形乾電池2個、
⊕ ⊖ を正しく入れる。



カチッと音がするまで閉める。

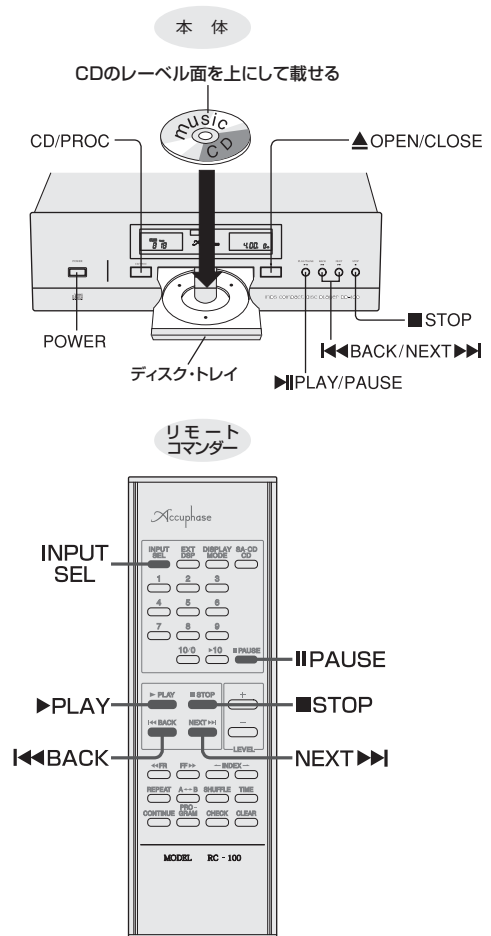
6. ご使用方法

- ※ 本体の機能(POWERと▲OPEN/CLOSE ボタンを除く)は、リモート・コマンダーの各ボタンでも同様に動作可能です。
- ※ 本説明書では、「トラック」と「曲」を同義で扱っています。

通常のCDプレーヤーとして使用する場合

演奏の基本操作

- 1 POWERスイッチを押し、電源を入れます。
- 2 ディスプレイ部に **CO** または **OP** と表示されている場合には、表示が消えるまで **CD/PROC** ボタンを押す。またはリモート・コマンダーの **(INPUT SEL)** ボタンでCDトランスポート動作にします。(5,21ページ参照)
- 3 ▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。
- 4 レーベル面を上にして、ディスクをテーブルに載せます。
- 5 ▶ **PLAY/PAUSE** ボタンを押すか、リモート・コマンダーの ▶ **(PLAY)** ボタンを押すとディスク・トレイが閉じて、第1曲目から演奏がはじまります。
- 6 最終トラックの演奏が終了すると、STOP状態になります。
- 7 ▲ **OPEN/CLOSE** ボタンを押して、ディスク・トレイを出します。ディスクを取り出したあと、ディスク・トレイは必ず閉じておきます。



メモ : 本体の▶▶PLAY/PAUSEボタンは、リモート・コマンダーでは▶▶PLAYボタンと▶▶PAUSEボタンに分かれています。

演奏中の基本操作

- 演奏停止(ストップ) ■ **STOP** ボタン
- 演奏を一時停止(ポーズ) ▶▶ **PLAY/PAUSE** または ▶▶ **(PAUSE)** ボタン
(ポーズ中は **PLAY** 点滅)
- 一時停止をやめて演奏再開 ▶▶ **PLAY/PAUSE** または ▶▶ **(PLAY)** か ▶▶ **(PAUSE)** ボタン
(演奏中は **PLAY** 点灯)
- 1曲先に進む ▶▶ **(NEXT)** ボタン
- 演奏中の頭または1曲前に戻る **(BACK)** ◀◀ ボタン
- ディスクを取り出す ▲ **OPEN/CLOSE** ボタン (本体のみ)

ディスプレイ部 (CDプレーヤー動作時)

- ディスプレイ上の数字は説明用の表示例です。
- CDプレーヤー動作時の表示は5ページを参照。

表示の説明

A **PLAY** プレイ/ポーズ表示

PLAY中は点灯、PAUSE中は点滅、STOP時は消灯します。

PLAY

PLAY中：点灯



PAUSE中：点滅

B **PROGRAM** プログラム表示 (18,19ページ参照)

プログラムをセットするときやプログラム演奏中に点灯します。

PROGRAM

PROGRAM中：点灯

C **REPEAT** リピート表示 (16,17ページ参照)

リピート演奏時に点灯し、ALL (全曲)/1 (1曲)/A ↔ B (指定区間)のいずれかであることを表示します。

REPEAT ALL

全曲

REPEAT 1

1曲

REPEAT A ↔ B

A ↔ B 指定区間

REPEAT中：点灯

D **演奏トラック**

PLAY中やPAUSE中のトラック (曲) 番号を表示します。

E **INDEX/TRACK**

インデックス番号 / 総トラック数

プレイ中(TIME)ボタンを押すと、ディスプレイ部の経過時間と残量時間が切り替り、INDEX/TRACK表示も切り替ります。(6 タイム表示のイラスト参照)

INDEX (点灯)



インデックス番号

「曲中経過時間」と「曲中残量時間」表示の場合は、**INDEX**が点灯し、インデックス番号を表示します。

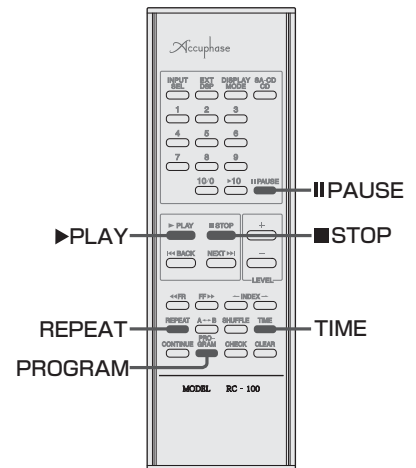


TRACK (点灯)



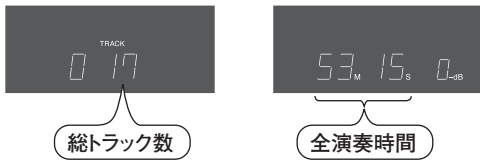
ディスクの
総トラック数

「トータル残量時間」と「トータル経過時間」の表示中は、**TRACK**が点灯し、ディスクの総トラック数を表示します。



F タイム表示

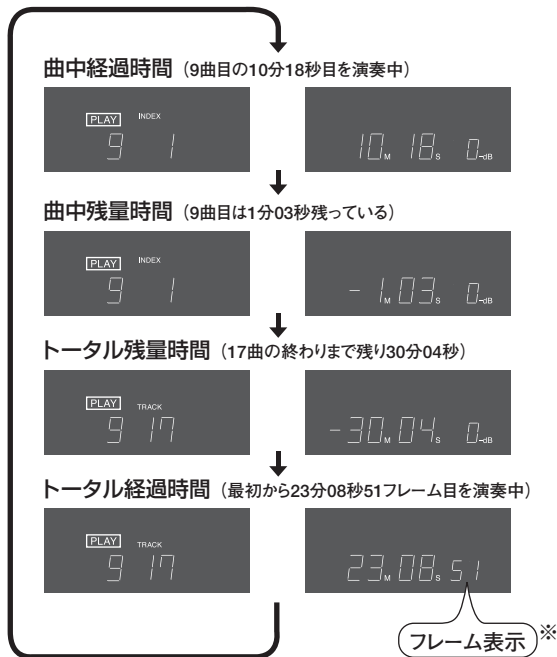
①ディスクが入ると総トラック数と全演奏時間を表示



②PLAY中やPAUSE中は経過時間や残量時間を表示

(TIME) ボタンを押すことにより、図のような表示を繰り返します。

PLAY (演奏) 中の表示例

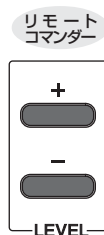


- トータル経過時間の場合には、**F**タイム表示に分(M)・秒(S)を、**G**出力レベル/フレーム表示にフレーム(1フレーム=1/75秒)が表示されます。フレーム単位の頭出しは15ページ参照。
- 残量時間を表示しているときは、数字の前に「-」記号が出ます。
- 演奏が始まる前には経過時間がカウントダウンされますので、「-」記号が出る場合があります。

※プログラム演奏中のトータル経過時間は、フレーム表示ではなく出力レベル表示のままとなります。(19ページ参照)

G 出力レベル/フレーム表示

LEVELボタンの(+) (-)により、出力レベルをデシベル(dB)で表示します。また、(TIME)ボタンでトータル経過時間を選択した場合には、「-dB」は消灯し、フレーム表示となります。



いろいろな演奏方法

途中で演奏を中止するには

◎一時停止は

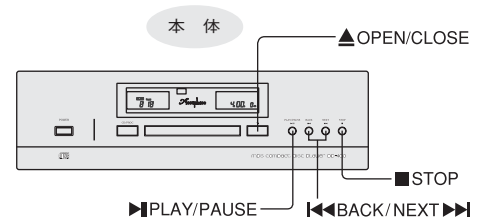
▶|| [PLAY/PAUSE] (または || [PAUSE]) ボタンを押します。▶PLAY が点滅して演奏は一時停止します。一時停止を解除するときは、再度 ▶|| [PLAY/PAUSE] (または ▶▶ [PLAY] か || [PAUSE]) ボタンを押してください。一時停止したところから演奏が始まります。

◎演奏を止めるには

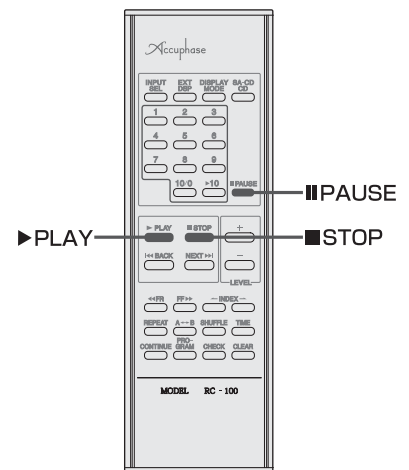
■ [STOP] ボタンを押します。この場合は、続きの演奏はできません。

◎ディスクを取り出すときは

演奏中でも、▲ [OPEN/CLOSE] ボタン(本体のみ装備)を押します。



リモート コマンダー



演奏を直ちに開始しないとき

◎ディスクを載せてから、▲ [OPEN/CLOSE] ボタンを押すと、ディスク・トレイが閉じてスタンバイ状態になります。

◎ディスクを載せてから、リモート・コマンダーの || [PAUSE] ボタンを押すと、ディスク・トレイは閉じ、第1曲目の演奏開始待ち(PAUSE)の状態になります。

トラック(曲)を指定して演奏

◎PLAY(演奏)中やSTOP状態のとき、ダイレクトプレイ・ボタン(1)～(9)等のボタンを使うと、指定のトラックの頭から演奏を開始することができます。トラックの番号を直接押して選曲します。

- (1) ～ (9) 押したボタン(番号)のトラックから演奏開始
- (10/0) 10曲目を演奏
- 11曲目以降の演奏は (>10) ボタンを使用します
例： 15曲目の演奏 …… (>10) → (1) → (5)
30曲目の演奏 …… (>10) → (3) → (10/0)

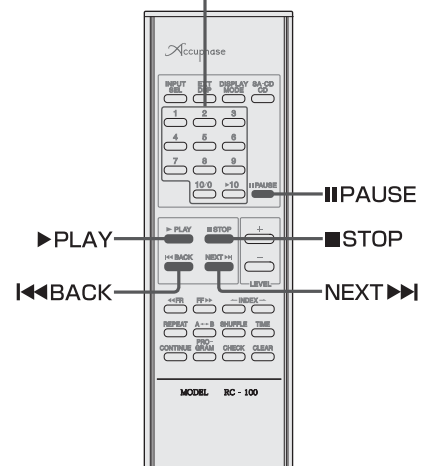
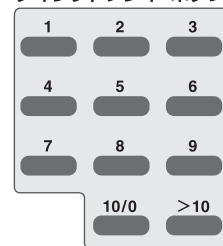
※ディスクに入っているトラック数以上の選曲はできません。

◎演奏中に、◀◀ [BACK] / ▶▶ [NEXT] ボタンを使って、任意のトラックを選択します。

◎PAUSE(一時停止)のとき、◀◀ [BACK] / ▶▶ [NEXT] ボタンを使って、任意のトラックを選択し、▶▶ [PLAY/PAUSE] (または ▶▶ [PLAY]) ボタンを押します。

×ME PAUSE(一時停止)中にダイレクトプレイ・ボタンを押すと、押したトラックの頭でポーズ(一時停止)のままになります。

ダイレクトプレイ・ボタン



トラック(曲)の途中の演奏したい部分を探す

演奏中に探す

- ◀◀ (FR) / (FF) ▶▶ ボタンを押し続けます。

再生音が断続的に聞えますので、希望の部分に近づいたら、ボタンを離します。
その部分から演奏を始めます。

PAUSE(一時停止)中に探す

- ◀◀ (FR) / (FF) ▶▶ ボタンを押し続けます。

再生音は聞えませんが、時間表示をみながら、希望の部分に近づいたらボタンを離します。
その部分で一時停止になります。

インデックスで探す: インデックス・サーチ

INDEXとは...

1曲の中で、いくつかの部分に区切って番号を付けたものです。
区切りのない曲は、**1** を表示します。

演奏中または一時停止中に、インデックス・サーチ・ボタンを使用すると、希望のインデックス番号の先頭から演奏を始めることができます。

◀ (INDEX) ボタン

一回押すと、演奏しているインデックスの先頭に戻ります。
押すごとに、前のインデックスの頭に戻ります。

▶ (INDEX) ボタン

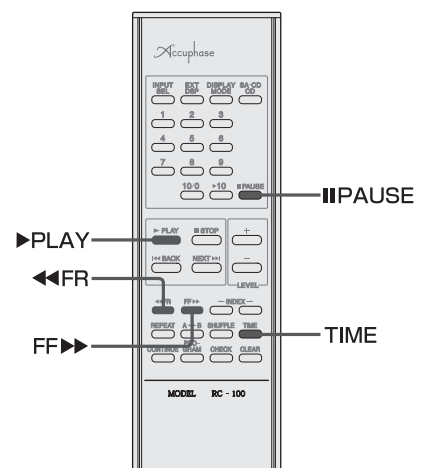
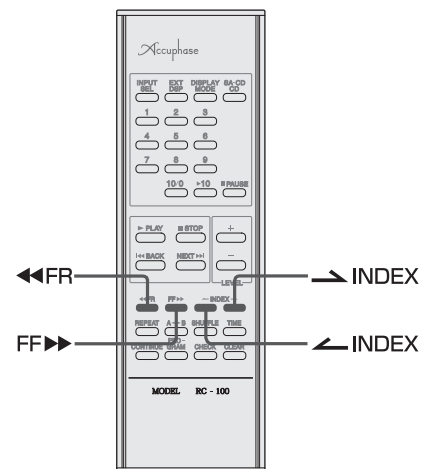
押すごとに、次のインデックスの先頭に進みます。

- ◆ サーチ中はタイム、インジケータは消えます。また、音も出ません。
- ◆ トータル残量時間/トータル経過時間で縦トラック表示の場合、◀ (INDEX) ボタンを押すと、サーチ中はインデックス表示に変わります。

フレーム(1/75秒)単位の頭出し

メモ リモート・コマンダー RC-100を使用した操作例で説明します。

- ① (TIME)ボタンの選択により「トータル経過時間」(13ページ⑥参照)を表示(フレーム表示)させ、|| (PAUSE)ボタンを押しPAUSE状態にします。
- ② ◀◀ (FR) / (FF) ▶▶ ボタンにより演奏開始フレームを指定します。この時は、頭出しに便利のように小音量で音がでます。
- ③ 再度 || (PAUSE) ボタンを押すと、音は消えて通常の一時停止状態に戻ります。
- ④ 更に▶ (PLAY) または || (PAUSE) ボタンを押すと、指定したフレームより演奏を開始します。



リピート（繰り返し）演奏

ディスク全曲／1曲／指定した特定部分(A↔B)の繰り返し演奏ができます。

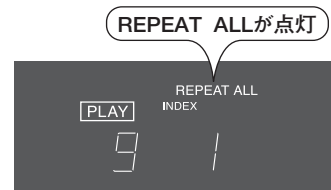
- プログラム再生のときも可能です。(ただし、A↔Bリピートはできません。)
- トレイOPEN時や本機の電源を切っても、全曲および1曲リピートは記憶されますが、A↔Bリピートは解除されます。

ディスク全曲の繰り返し演奏：全曲リピート

REPEAT ボタンを1回押して、▶|| **PLAY/PAUSE** (または▶ **PLAY**) ボタンを押す。再生中でも可能です。

ディスプレイ上に **REPEAT ALL** が点灯し、全曲リピートが始まります。

通常の再生の場合 …………… 全曲を順番に再生
 プログラム再生 …………… プログラムの曲順に再生



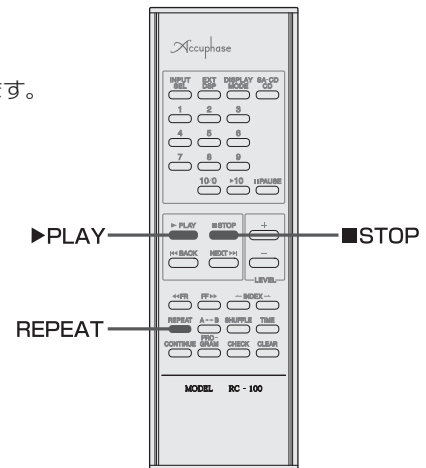
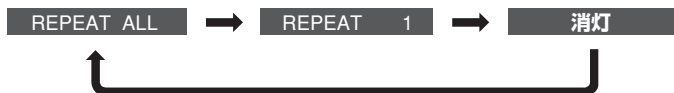
全曲リピートを中断するには…

- **STOP** ボタンを押す。
- 再び▶|| **PLAY/PAUSE** (または▶ **PLAY**) ボタンを押すと、全曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには…

- REPEAT** ボタンを2回押します。
- REPEAT ALL** が消灯し、全曲リピートは解除されます。

押すごとに表示が切り替わります (消灯でリピート解除)



1曲の繰り返し演奏：1曲リピート

繰り返したいトラックの再生中に、**REPEAT 1** が点灯するまで **REPEAT** ボタンを繰り返し押します。

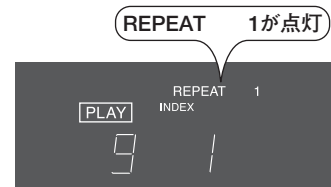
REPEAT 1 が点灯すると、1曲リピートが始まります。

1曲リピートを中断するには…

- **STOP** ボタンを押す。
- 再び▶|| **PLAY/PAUSE** (または▶ **PLAY**) ボタンを押すと、1曲リピートが始まります。

通常の演奏に戻すには…

- REPEAT** ボタンを1回押します。
- REPEAT 1** が消灯し、1曲リピートは解除されます。

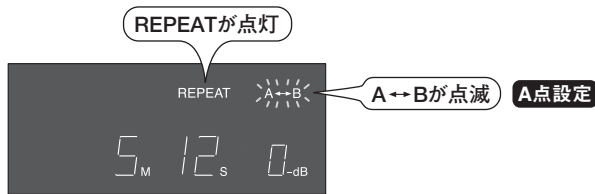


指定区間の繰り返し演奏：A↔Bリピート

トラック(曲)の聞きたい部分を指定し、そこだけを繰り返し演奏することができます。

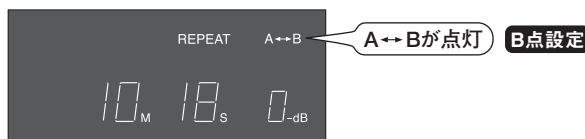
- メモ**
- トラックを超えて指定することも可能です。
 - PAUSE(一時停止中)でも設定可能です。

- 1** PLAY(演奏)中に、繰り返しの始点(A点)で **(A↔B)** ボタンを押す。ディスプレイ上の **REPEAT** が点灯し、**A↔B** が点滅します。

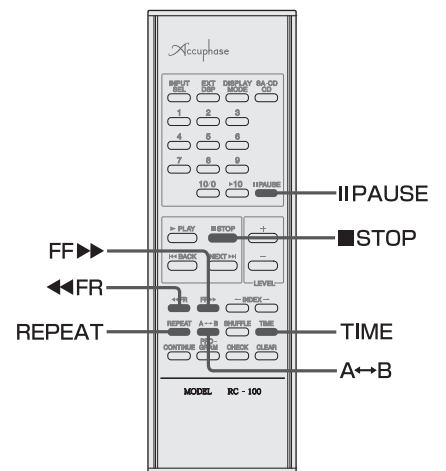


- 2** そのまま演奏を続けて、繰り返しの終点(B点)で **(A↔B)** ボタンを押す。**A↔B** が点灯に変わり、演奏はA点に戻ります。

- **◀◀(FR) / (FF)▶▶** ボタンを使うと、手早くB点を定めることができます。



- 3** **A↔Bリピート** が始まります。



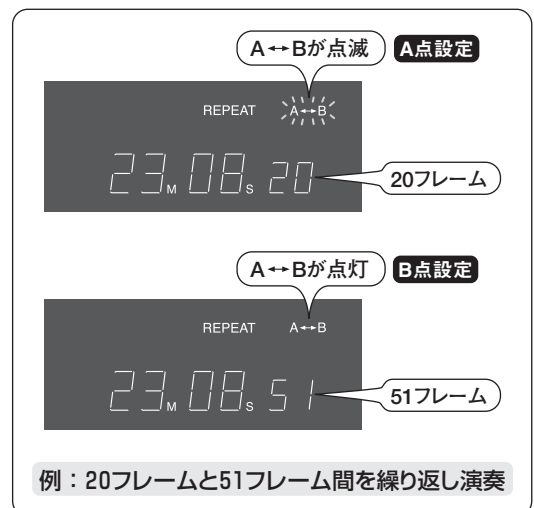
A↔Bリピート を解除するには…

演奏中に **(REPEAT)** ボタンまたは **(A↔B)** ボタンを押すと、**A↔Bリピート** は解除されます。

フレーム単位での特殊な繰り返し演奏

メモ リモート・コマンダー RC-100を使用した操作例で説明します。

- 1** リピート演奏中の場合は、リピートを解除します。
- 2** PLAY中に **(TIME)** ボタンを押してトータル経過時間を選択し、フレーム単位まで表示させます。(13ページ参照)
- 3** **II(PAUSE)** ボタンを押し、ポーズ状態にします。**◀◀(FR) / (FF)▶▶** ボタンを押し、上項の **A↔Bリピート** と同じように **(A↔B)** ボタンを押してA点、B点を設定する。この時は、頭出しに便利のように小音量で音がでます。
- 4** 再度 **II(PAUSE)** ボタンを押すと、音は消えて通常の一時停止状態に戻ります。
- 5** 更に **▶(PLAY)** または **II(PAUSE)** ボタンを押すと、**A↔Bリピート** が始まります。



プログラム演奏

自分でプログラムして、聴きたいトラック(曲)だけを好きな順序で演奏を楽しむことができます。プログラムは、32曲(合計時間999分59秒まで表示)登録することができます。

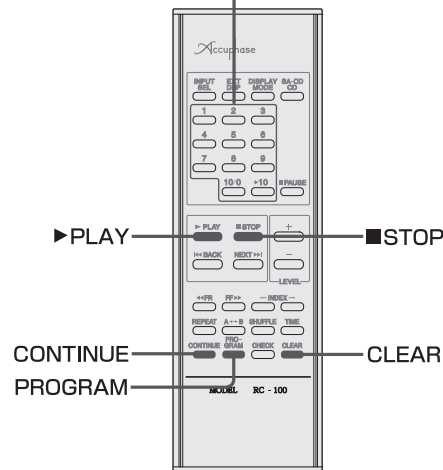
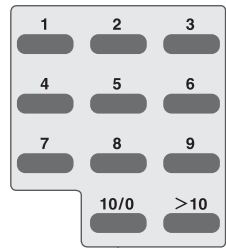
プログラムするには

- STOP(停止)中に、(PROGRAM)ボタンを押す。
 - PROGRAMが点灯して、設定開始となります。
 - (PROGRAM)ボタンまたは(CONTINUE)ボタンを押すとPROGRAMが消灯し、設定中のプログラム・モードは解除されます。
- ダイレクトプレイ・ボタンで、好みのトラック番号を押す。
ボタンを押して入力すると、トラック番号、プログラムした順序、プログラムしたトラックの合計演奏時間が表示されます。
 - トラック番号を押しまちがえたときは、(CLEAR)ボタンを押して再入力します。
 - 11曲目以降の入力は、(>10)を使用します。(14ページ参照)
 - 途中の変更は次ページの「プログラムした内容を変更する」を参照してください。



- プログラムが終わったら、▶|| (PLAY/PAUSE) (または▶ (PLAY))ボタンを押す。
プログラムした順序で演奏が始まります。

ダイレクトプレイ・ボタン



プログラム演奏中に普通の再生に戻すには

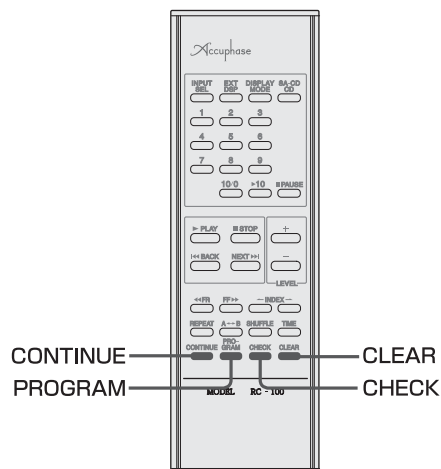
- (CONTINUE)ボタンまたは(PROGRAM)ボタンを押すと、普通の再生に戻ります。
- プログラム内容は残っていますので、再度(PROGRAM)ボタンを押すと、現在演奏中のトラック終了後、再びプログラム演奏に戻ります。

プログラムの演奏順序やトラック数がチェックできる

プログラム・モード時、(CHECK)ボタンを1回押すごとに、プログラムした第1曲目から順番にトラック数とプログラム番号を表示します。

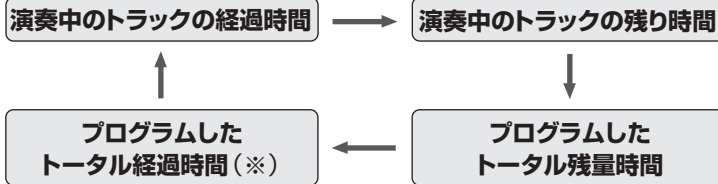
(CLEAR)ボタンを押すか、またはそのままにしておけば、2秒後に解除されて、ボタンが押される前の状態に復帰します。

なお、チェック中の時間表示はありません。

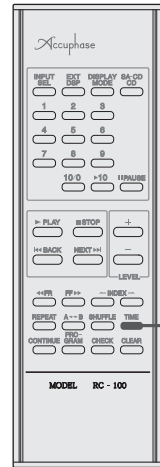


プログラム演奏中に(TIME)ボタンを押すと

押すたびに、下記のように繰り返し表示します。



※プログラムした「トータル経過時間」の場合、フレーム表示ではなく出力レベル表示のままとなります。(13ページ参照)



プログラムした内容を変更する

演奏を始める前、または ■(STOP) ボタンを押して 停止中のとき、プログラムの内容を変更できます。

※PLAY(演奏)中やPAUSE(一時停止)中にはできません。

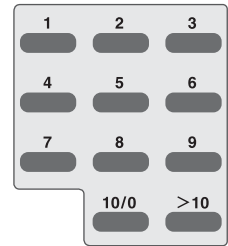
●プログラムしたトラック(曲)を削除したいときは

◀◀(BACK) / (NEXT) ▶▶ ボタンを使って削除したいトラック番号を表示させ、(CLEAR) ボタンを押します。

●途中にプログラムを追加したいときは

◀◀(BACK) / (NEXT) ▶▶ ボタンを使って追加したい場所を表示させて、ダイレクトプレイ・ボタンで入力します。
表示されているトラック番号の次に追加入力されます。

ダイレクトプレイ・ボタン

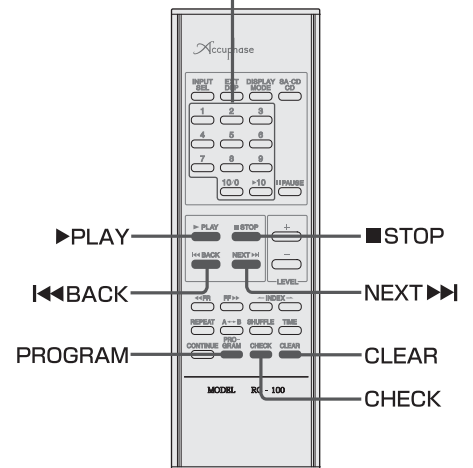


セットしたプログラムをすべて削除したいときは

ディスクトレイを開けるか、本機の電源を切ります。

プログラム演奏のご注意

- ▼演奏が終ってもプログラムは残っています。▶▶(PLAY/PAUSE)(または▶(PLAY)) ボタンを押すと再び演奏が始まります。
- ▼プログラム演奏中に ■(STOP) ボタンを押すと、演奏は停止しますが、プログラムは解除されません。
- ▼プログラム演奏中に◀◀(BACK) / (NEXT) ▶▶ ボタンを用いれば、プログラム順序に従って、戻り/送りされ、希望のトラック(曲)の頭から演奏開始ができます。
- ▼プログラム演奏中にダイレクトプレイ・ボタンは作動しません。
- ▼REPEAT(繰り返し)演奏は、プログラム演奏中やプログラム中であってもセット可能ですが、A↔Bリピートはできません。
- ▼プログラム演奏中においても INDEX(インデックス) ボタンを使用して演奏を楽しむことができます。



タイマー演奏

タイマー演奏： **P-on** 設定すると、ディスクをセットしておけば電源が入ると自動的に演奏が始まります。市販のオーディオ・タイマーとの組み合わせにより、ご希望の時間に演奏を開始することができます。

※出荷時の初期設定は、**P-oF** に設定されています。

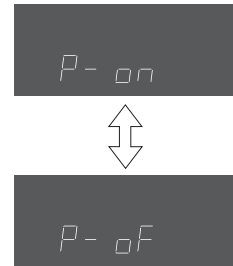
タイマー演奏をするには： **P-on** 設定

[STOP] ボタンを約2秒間押しつづけると表示部に **P-on** と表示されます。

タイマー演奏を止めるには： **P-oF** 設定(初期設定)

再度 [STOP] ボタンを約2秒間押しつづけると、**P-oF** と表示され通常の使用状態になります。

このように、[STOP] ボタンにより **P-on** と **P-oF** が交互に設定されます。



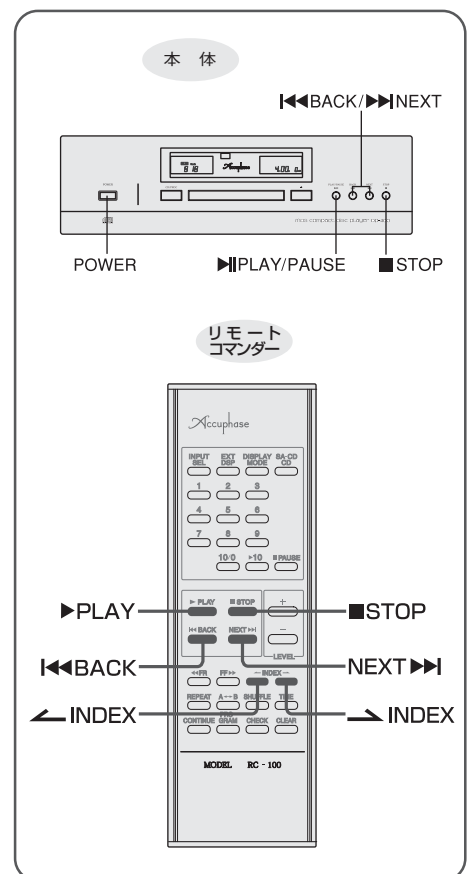
P-on 設定されたら

- ① **P-on** 表示後、**BACK** / **NEXT** ボタンにより希望のトラック番号を指定します。
- ② インデックス番号は、**INDEX** サーチ・ボタンにより指定します。
- ③ **PLAY/PAUSE** (または **PLAY**) ボタンを押して演奏を始めるか、またはトラック指定後電源をOFFにするとその番号が記憶されます。
- ④ 次の電源スイッチON時には、ディスクをセットしておけば指定したトラック/インデックス番号の最初から演奏を開始します。

- ◎ 記憶されたトラック/インデックス番号は、新たに **P-on** 表示して指定するまで変更されません。
- ◎ **ダイレクトプレイ・ボタンからのトラック番号の指定は記憶されません。**
- ◎ 番号指定しないで電源OFFにすると、次の電源スイッチON時には、1番目のトラック/インデックスにより演奏を始めます。
- ◎ 番号記憶後は、通常の操作方法により演奏をお楽しみください。
- ◎ 番号指定後ディスクを交換してもその番号より演奏します。ただし、記憶された番号がそのディスクの総トラック数より大きい場合は、最後のトラックより演奏します。
- ◎ リピートの“ALL”と“1”は、電源OFF直前の状態が記憶されます。

P-oF 設定にすると

P-oF 表示にしますと通常の動作状態です。電源ON時に、ディスクが入っていれば内容を読み込んで演奏待機状態になりますが、演奏は開始しません。



外部機器を接続してデジタル・プロセッサ一部を活用

外部のデジタル機器(CDトランスポート、レコーダー、DG-48等)を接続して、本機のデジタル・プロセッサ一部を活用することができます。

1 「外部接続機器のデジタル出力端子」と「本機のDIGITAL INPUTS端子」を接続します。

2 各機器の電源を入れる。

3 本体の **CD/PROC** ボタンを押す、またはリモート・コマンダーの **INPUT SEL** ボタンを押して、接続した外部入力機器を選択します。ディスプレイ部に入力ポジション(**CO**または**OP**)が表示され、入力信号をロックインすると **PROCESSOR** が点滅から点灯に変わります。

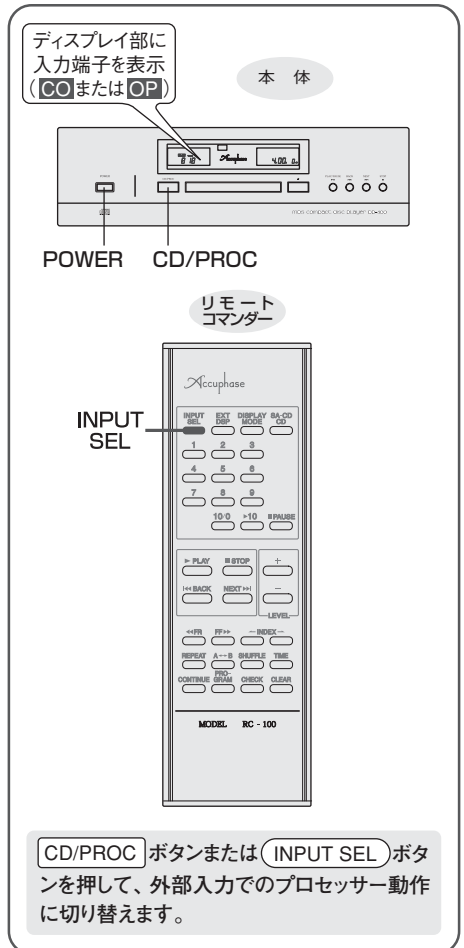
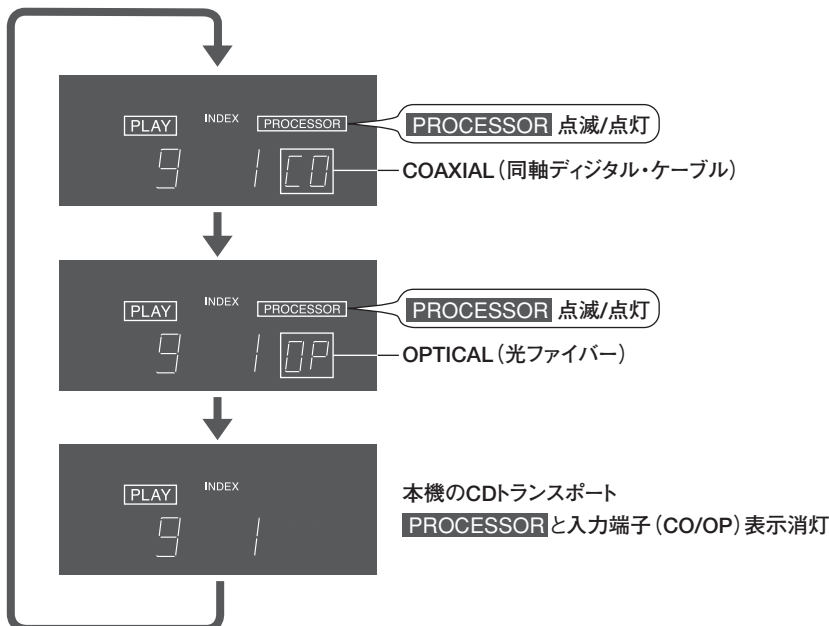
4 外部接続機器の操作にて演奏をお楽しみ下さい。

注意 プロセッサ動作に切り替えても、本機のトランスポート動作は停止しません。したがって、ディスプレイ部のCDプレーヤー表示も変わりません。

ディスプレイ部の表示 (5ページ参照)

HI プロセッサ外部入力動作

CD/PROC ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンを押すごとに、入力ポジションが切り替わります。



↓

**外部入力信号をロックインすると
PROCESSOR が点滅から点灯に変わる**

《入力信号がロックインされないとき》

- 入力端子に機器が接続されていないとき
- ソース機器の電源が入っていないとき
- ミューティング動作中 (電源ON時や入力切替時)

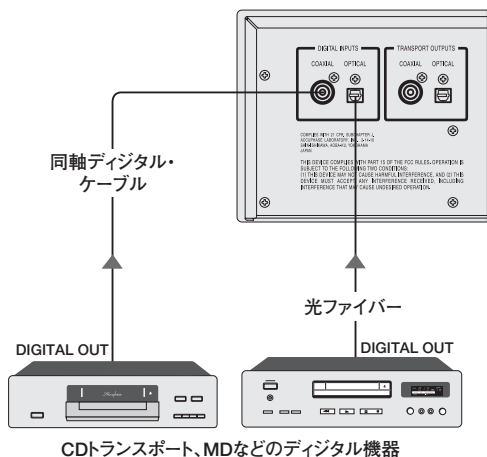
- ロックインすると点灯に変わる

デジタル入力でCDトランスポート、MDなどを再生

CDトランスポート、MDなどをデジタル信号で入力、外部デジタル機器を接続して演奏することができます。

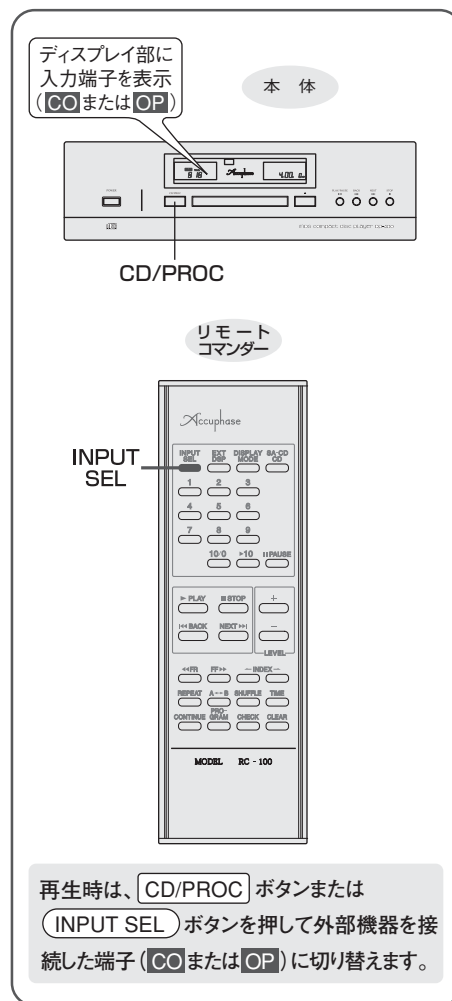
接続例

ソース側デジタル機器の「DIGITAL OUT」 ⇔ 本機の「DIGITAL INPUTS」



操作手順 (21ページ参照)

- 1 CDトランスポート、MDなどのデジタル出力端子と本機の「DIGITAL INPUTS」端子を接続します。
- 2 各機器の電源を入れます。
- 3 **CD/PROC** ボタンまたはリモート・コマンダーの **(INPUT SEL)** ボタンで外部入力機器の選択(OPTICALまたはCOAXIAL)をします。
- 4 外部接続機器を操作して演奏をお楽しみください。



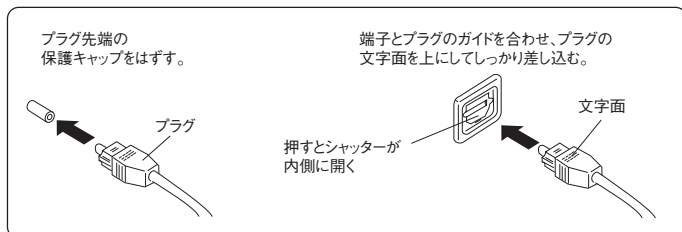
接続ケーブル

COAXIAL

ピンプラグ付同軸デジタルケーブルで接続してください。

OPTICAL

JEITA規格の光ファイバー接続用端子です。



注意

- 光ファイバーは、曲げなどの力には非常に弱く、断線する場合があります。長さに余裕があるときは、セットの後ろで丸く(直径10cm以上)束ねておいてください。決して強く曲げないでください。切断、再加工などはできません。
- 光ファイバーは、コア(芯材)に光信号が通ります。プラグの先端のキズ、汚れ、レセプタクルの中の異物は天敵です。使用しない時には、必ずキャップを付けておいてください。
- 光ファイバーの抜き差しは、プラグをしっかり持って行ない、ファイバーを引っ張らないように注意しましょう。

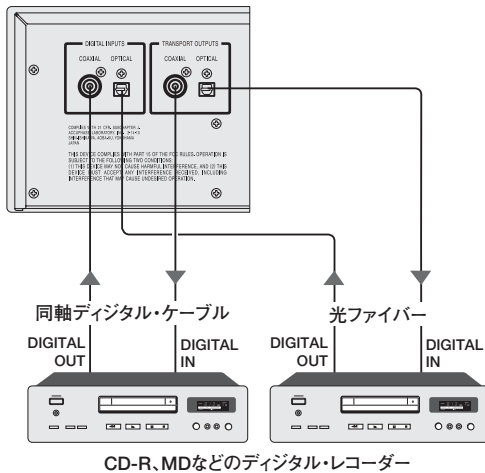
デジタル・レコーダーで録音・再生をする場合

デジタル・レコーダーを接続して、録音・再生ができます。

- 注意**
- 「TRANSPORT OUTPUTS」端子には、本機のCDデジタル(トランスポート)信号が出力され録音可能になります。
 - CD/PROC** ボタンまたは**INPUT SEL** ボタンでプロセッサー外部入力に切り替えても本機のCDトランスポート動作は継続していますから、そのまま録音可能です。
 - 「DIGITAL INPUTS」から入力された外部信号は、デジタル録音することができません。

接続例

本機の「DIGITAL INPUTS」端子 ⇔ レコーダーの「DIGITAL OUT」
 本機の「TRANSPORT OUTPUTS」端子 ⇔ レコーダーの「DIGITAL IN」



再生: プレイバック

CD/PROC ボタンまたは**INPUT SEL** ボタンで、接続したソース(入力端子)に合わせ、レコーダーを再生状態にすれば再生音を聴くことができます。

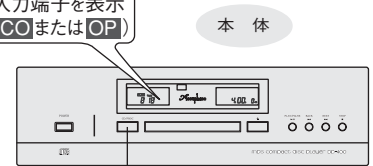
録音: レコーディング

操作手順

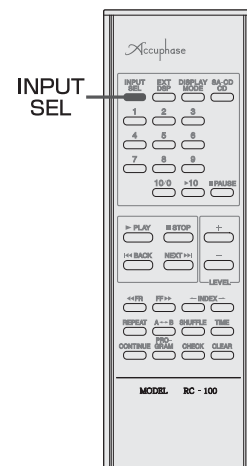
- 1 本機でCDを再生して、スピーカーから音を出して確認します。
- 2 このデジタル信号が各「TRANSPORT OUTPUTS」端子からレコーダーへ出力されます。
- 3 デジタル録音は、レコーダー側で録音側のサンプリング周波数(CDの場合: 44.1kHz)を設定(変換)します。
- 4 レコーダーの録音をスタートすれば、本機のCDトランスポートのデジタル録音ができます。
- 5 「TRANSPORT OUTPUTS」の各端子には、同一信号が出力されますので、接続してあるレコーダー(但し、録音側のサンプリング周波数に注意)で同時に録音することができます。

注意 録音中にプロセッサー外部入力に切り替えても、そのまま本機のCDトランスポートの録音を継続することができます。ただし、アナログ出力(スピーカーからの音)は外部接続機器の出力になります。

ディスプレイ部に
入力端子を表示
COまたは**OP**



リモート
コマンダー



再生時は、**CD/PROC** ボタンまたは
INPUT SEL ボタンを押して外部機器を接
続した端子 (**CO**または**OP**) に切り替えます。

注意

- * デジタル録音の場合、SCMS(シリアル・コピー・マネージメント・システム)により、一度デジタル録音で作成したソースは他のMD等にデジタルで録音することはできません。
- * デジタル → デジタルでの録音の場合、ソース側とレコーダー側相互のサンプリング周波数が合わないと録音できません。

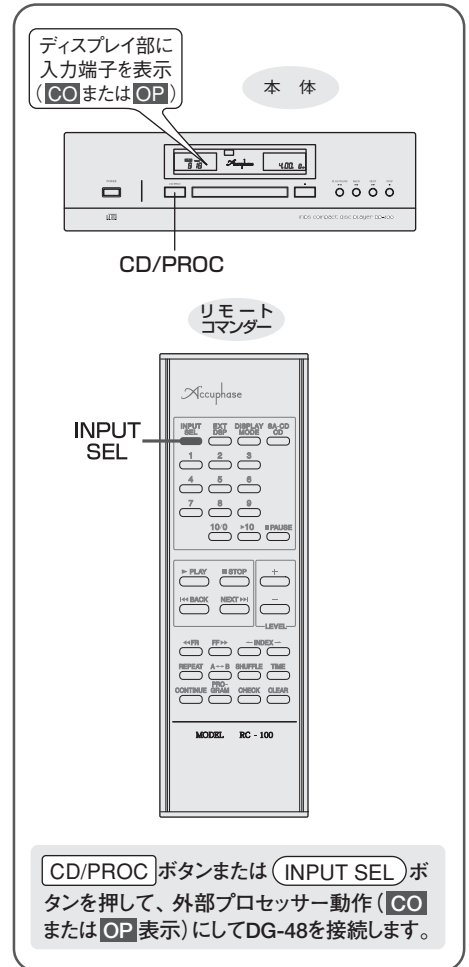
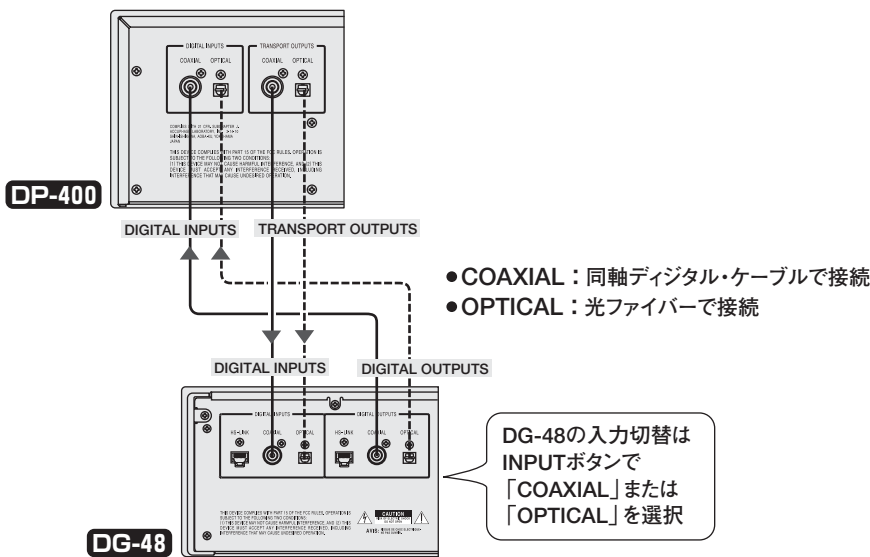
デジタル・ヴォイシング・イコライザーDG-48の接続

「TRANSPORT OUTPUTS」と「DIGITAL INPUTS」の間にDG-48を接続すれば、本機のCDトランスポートの信号をデジタルで音場補正をすることができます。

●詳しい動作・操作方法は、DG-48の取扱説明書を参照してください。

接続例

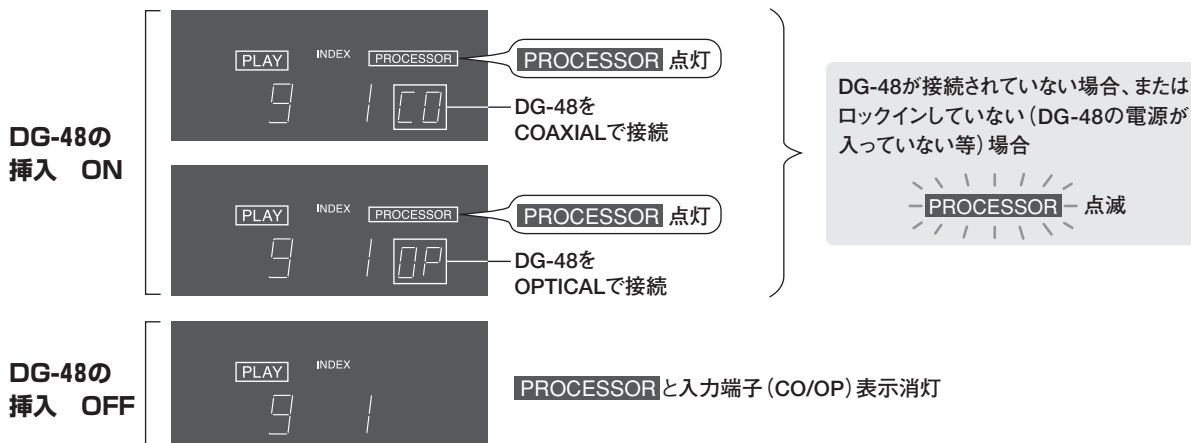
本機の「TRANSPORT OUTPUTS」端子 ⇔ DG-48の「DIGITAL INPUTS」
 本機の「DIGITAL INPUTS」端子 ⇔ DG-48の「DIGITAL OUTPUTS」



注意

- DG-48の電源が入っていないとき、またはDG-48の信号をロックインしないときは、プロセッサ外部入力に切り替えるとアナログ出力は途切れます。
- 演奏中に外部プロセッサの入力を切り替えるとDG-48の接続が外れ音量が急に変わります。

DP-400 ディスプレイ部の表示例 (DG-48の接続時)



7. 保証特性

[保証特性はJEITA測定法CP-2402Aに準ずる]
[測定用ディスク: JEITA CP-2403A準拠]

CDトランスポート部

フォーマット	: CD標準フォーマット
量子化数	: 16ビット
サンプリング周波数	: 44.1kHz
エラー訂正方式	: CIRC
チャンネル数	: 2チャンネル
回転数	: 500~200rpm (CLV)
線速度	: 1.2~1.4m/s一定

読み取り方式

非接触光学式読み取り

レーザー

GaAlAs(ダブルヘテロ接合可視光半導体レーザー・ダイオード)

トランスポート出力レベル

COAXIAL (IEC 60958)	0.5Vp-p 75Ω
OPTICAL (JEITA CP-1212)	光出力 -21 ~ -15dBm
	発光波長 660nm

デジタル・プロセッサ部

入力フォーマット(IEC-60958/AES-3に準拠)

量子化ビット数	: 16~24ビット直線
サンプリング周波数	: 32kHz, 44.1kHz, 48kHz 88.2kHz, 96kHz

デジタル入力レベル

COAXIAL (IEC-60958)	0.5Vp-p 75Ω
OPTICAL (JEITA CP-1212)	光入力 -27 ~ -15dBm

周波数特性

4~20,000Hz ±0.3dB

D/Aコンバーター

24ビット MDS++方式

全高調波ひずみ率(20~20,000Hz間、24bit入力時)

0.001%以下

S/N 114dB以上

ダイナミックレンジ 110dB以上

チャンネル・セパレーション 110dB以上

出力電圧・出力インピーダンス

BALANCED	: 2.5V 50Ω 平衡 XLRタイプ
UNBALANCED	: 2.5V 50Ω RCAフォノジャック

出力レベル・コントロール

0~60dB 1dBステップ(デジタル方式)

電源 AC100V 50/60Hz

消費電力 13W

最大外形寸法 幅465mm × 高さ150mm × 奥行393mm

質量 13.6kg

付属リモート・コマンダー RC-100

リモコン方式	: 赤外線パルス方式
電源	: 単4形乾電池2個使用
最大外形寸法	: 56mm×175mm×26mm
質量	: 155g(電池含む)

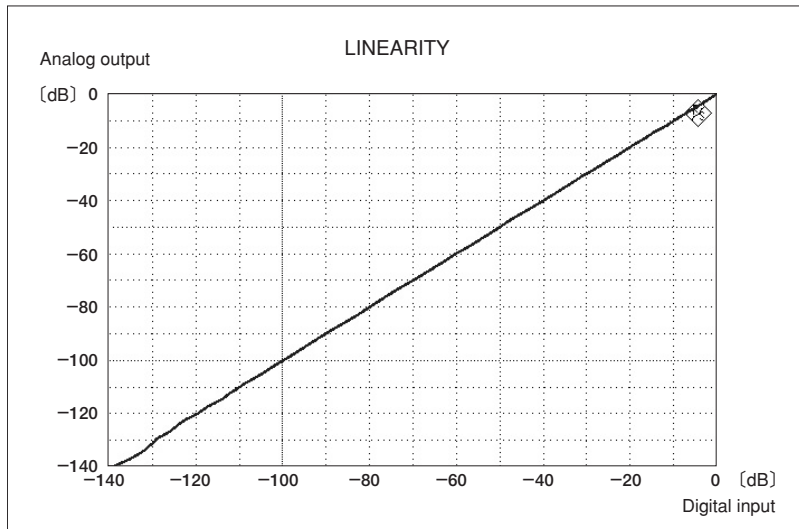
●本機は「JIS C-61000-3-2 適合品」です。

JIS C-61000-3-2 適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部: 限度値-高調波電流発生限度値(1相あたりの入力電流が20A以下の機器)」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

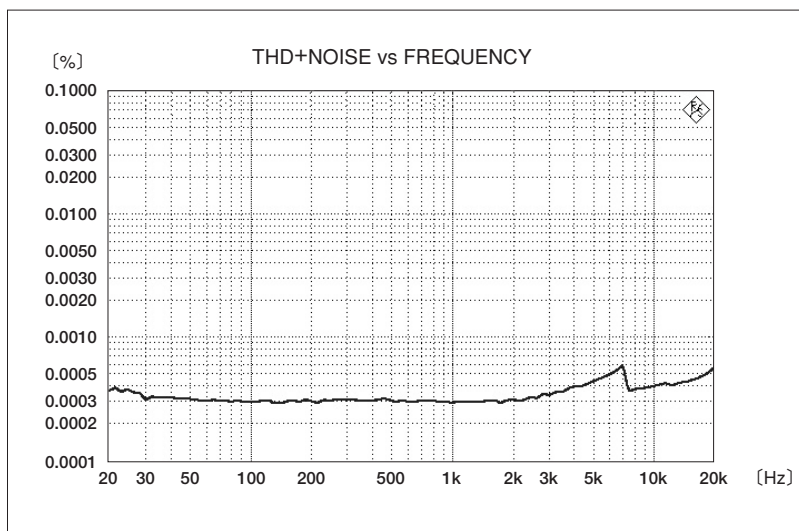
著作権について

放送や録音物(CD、テープなど)から、あなたが録音したものは、個人として楽しむ以外、権利者に無断で使用することはできません。音楽作品は著作権法により保護されています。

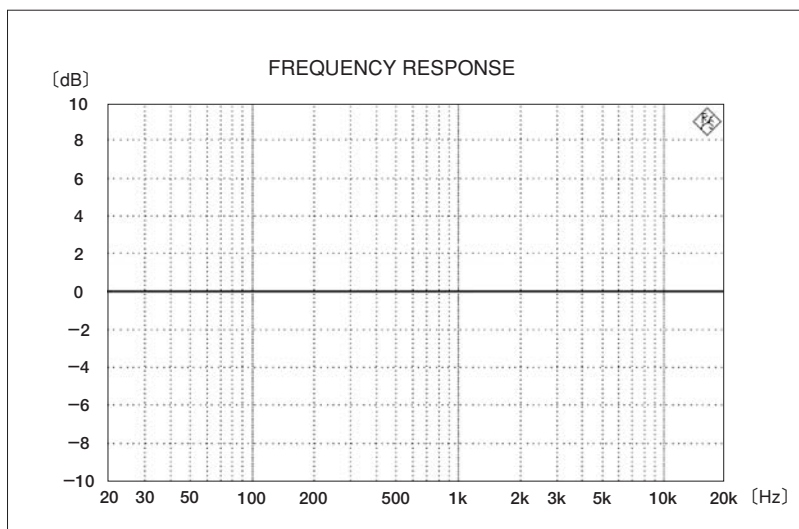
8. 特性グラフ



リニアリティ
(デジタル入力対アナログ出力)

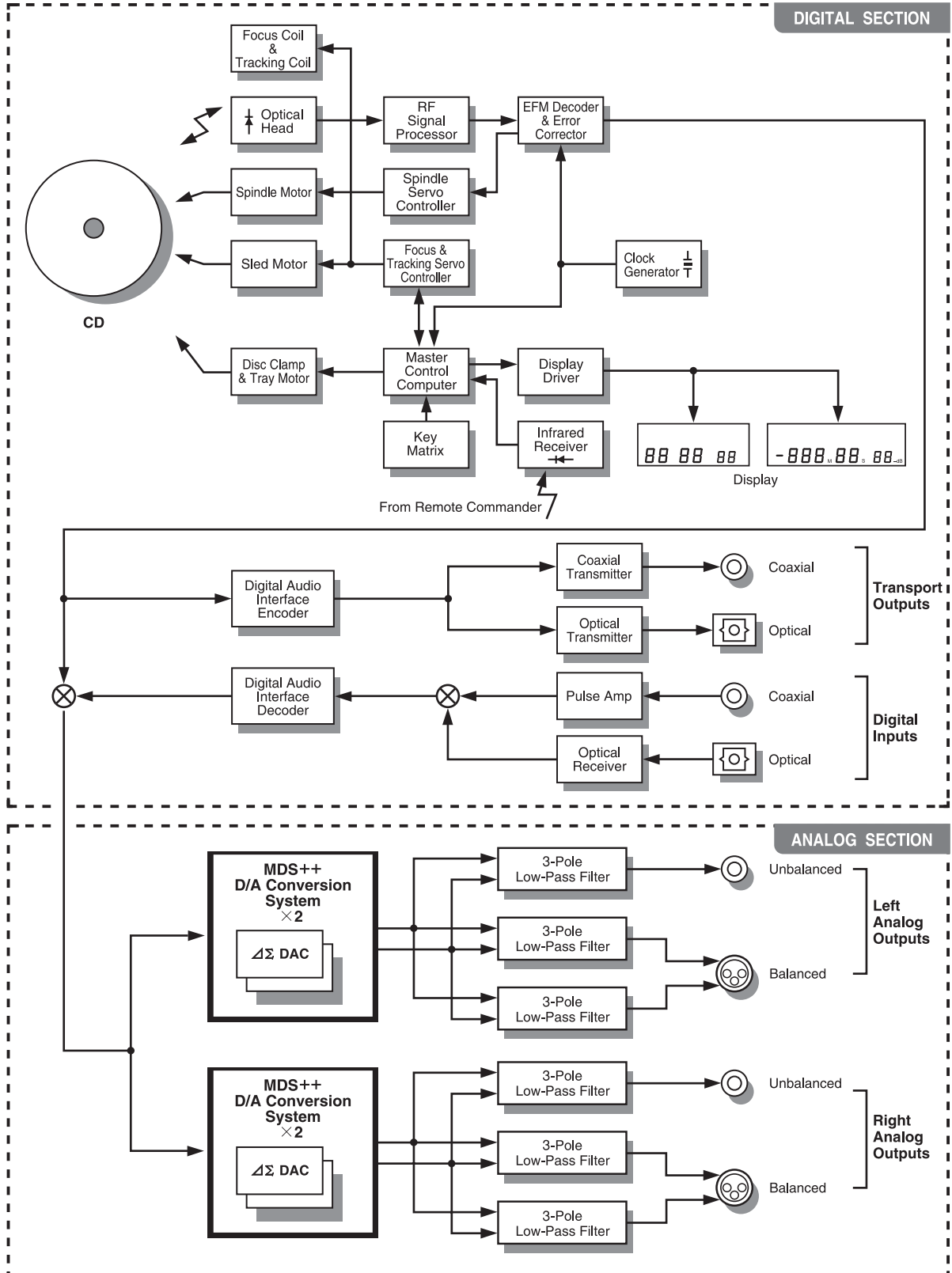


全高調波ひずみ率
(雑音含む) 対周波数特性



周波数特性

9. ブロック・ダイアグラム



10. 故障かな？と思われるときは

故障かな？と思われるときは、修理を依頼される前に、下記の項目をチェックしてください。
これらの処置をしても直らない場合には、当社製品取扱店または当社品質保証部にご連絡ください。



注意：接続を変える場合には、必ず各機器の電源を切る。

電源が入らない(ディスプレイが点灯しない)

- 電源コードが抜けていませんか。(本体側、コンセント側確認)
- 電源コードが傷んでいませんか。
……………傷んでいる場合は危険ですから当社品質保証部に連絡ください。

電源スイッチを入れると演奏が始まる

- タイマー演奏に設定されている。(20ページ参照)

演奏が始まらない

- ディスクが正常に装着されていますか。
- 低温時であれば、結露の可能性もあります。(3ページ参照)
- CDプレーヤー動作ですか。
……………**CD/PROC** ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンで確認します。
- 本機で再生できるディスクですか。
……………CDマークの有無を確認します。(3ページ参照)

音が出ない。またはレベルが低い

- **CD/PROC** ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンで外部機器のプロセッサー入力を確認します。
- 出力コードが正しくアンプに接続されていますか。
- アンプ側のスイッチ類やボリュームの確認をします。
- リモート・コマンダーの **LEVEL** ボタンで出力レベルを確認します。
- 本機で再生できるディスクですか。(3ページ参照)

音が途切れたり雑音が出る。 演奏途中でディスクが止まる

- ディスクに反り、汚れ、傷はありませんか。
- 接続コードのプラグの汚れ、接触を点検します。
- 光ファイバーはJEITA規格品ですか。
(規格に適合しないものは正常な動作ができません)

片側から音が出ない

- 出力コードを左右入れ替えます。
┌ 同じ側から音がでない …… アンプ側に原因が考えられます。
└ 左右逆になる ……………… 本機に原因が考えられます。

リモート・コマンダーで操作できない

- 電池は入っていますか。
- 電池の極性は⊕(プラス)と⊖(マイナス)が正しく合っていますか。
- 新しい電池に交換してみましょう。
- 受光部付近に障害物はありませんか。
- テレビやインバータ照明等の近くに設置していませんか。お互いに離すか、置く向きを変えてみます。

外部接続機器の音が出ない

- 外部機器入力になっていますか。(21ページ参照)
……………**CD/PROC** ボタンまたは **INPUT SEL** ボタンで確認します。
- 周波数ロックはされていますか。(21ページ参照)
……………光ファイバー、同軸それぞれのケーブルをお確かめください。

11. アフターサービスについて

保証書

- 保証書は本体付属の「お客様カード」の登録でお送りいたしますので、当社品質保証部に必ずご返送ください。
- 「お客様カード」の「お客様情報欄」には付属の「目隠しシール」を貼ってご返送ください。
- 保証書の記載内容により、保証期間はご購入日から3年間です。
- 「お客様カード」の登録をされていない場合、購入日は当社からの出荷日が適用されます。
- 保証書登録は付属の「お客様カード」で行われますが、購入が不適切な場合は登録できないことがあります。
- 保証書がない場合には、保証内修理をお断りする場合があります。よくお読みのうえ、大切に保存してください。
- オプション・ボードやオプション・ユニットには「お客様カード」は付属していません。

保証期間が過ぎてしまったら

- 修理によって性能を維持できる場合には、ご希望により有料で修理いたします。
- 補修部品の保有期間は経済産業省指導により、製造終了後最低8年間となっています。使用期間が相当経過している場合には、当社品質保証部にお問い合わせください。



注意

保証期間以降、長期に渡って安全にご使用いただくために、当社での定期的な点検を行ってください。内容については当社品質保証部にご相談ください。

その他

- 改造されたものは修理ができませんのでご了承ください。
- 本機の故障に起因する付随的損害(営利的使用に関する諸費用、使用により得られる利益の損失等)については補償できません。
- AC100V以外(海外)では使用できません。
- 保証は日本国内のみ適用されます。
Accuphase warranty is valid only in Japan.

お問い合わせは

- ご質問、ご相談、当社製品取扱店のご案内などは、下記の当社品質保証部へお願いします。

アキュフェーズ株式会社 品質保証部
〒225-8508 横浜市青葉区新石川 2-14-10
TEL 045(901)2771(代表)
FAX045(901)8995

- 修理のご相談は、お買い求めの当社製品取扱店へお願いします。
- 当社のホームページ上でも修理の問い合わせが可能です。
<http://www.accuphase.co.jp/>

修理依頼の場合には

- “故障かな?と思われるときは”をご確認後、直らない場合には、電源プラグをコンセントから抜き、当社製品取扱店に修理を依頼してください。

次の内容をお知らせください。(保証書参照)

- モデル名、シリアル番号
- ご住所、氏名、電話番号
- ご購入日、ご購入店
- 故障状況:できるだけ詳しく

※梱包材は、輸送時に必要となりますので、保管しておいてください。



ACCUPHASE LABORATORY, INC.

アキュフェーズ株式会社

横浜市青葉区新石川2-14-10

〒225-8508 TEL (045) 901-2771(代)

<http://www.accuphase.co.jp/>